
E2D3 GET STARTED

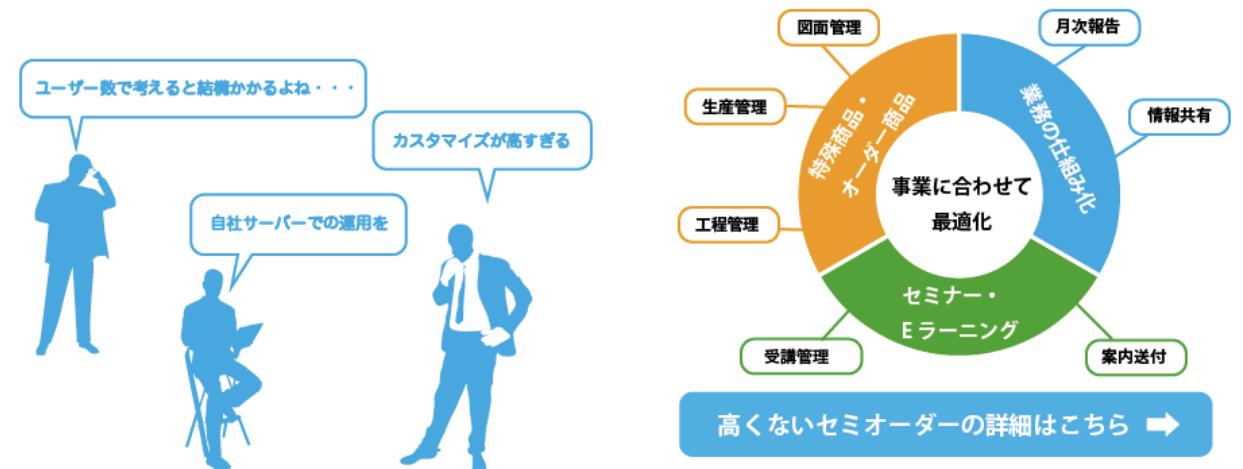
Ver 0.3

山本 優
ピタリ株式会社



簡単だから活用できる顧客販売管理
「セールスノート」
を提供しています。

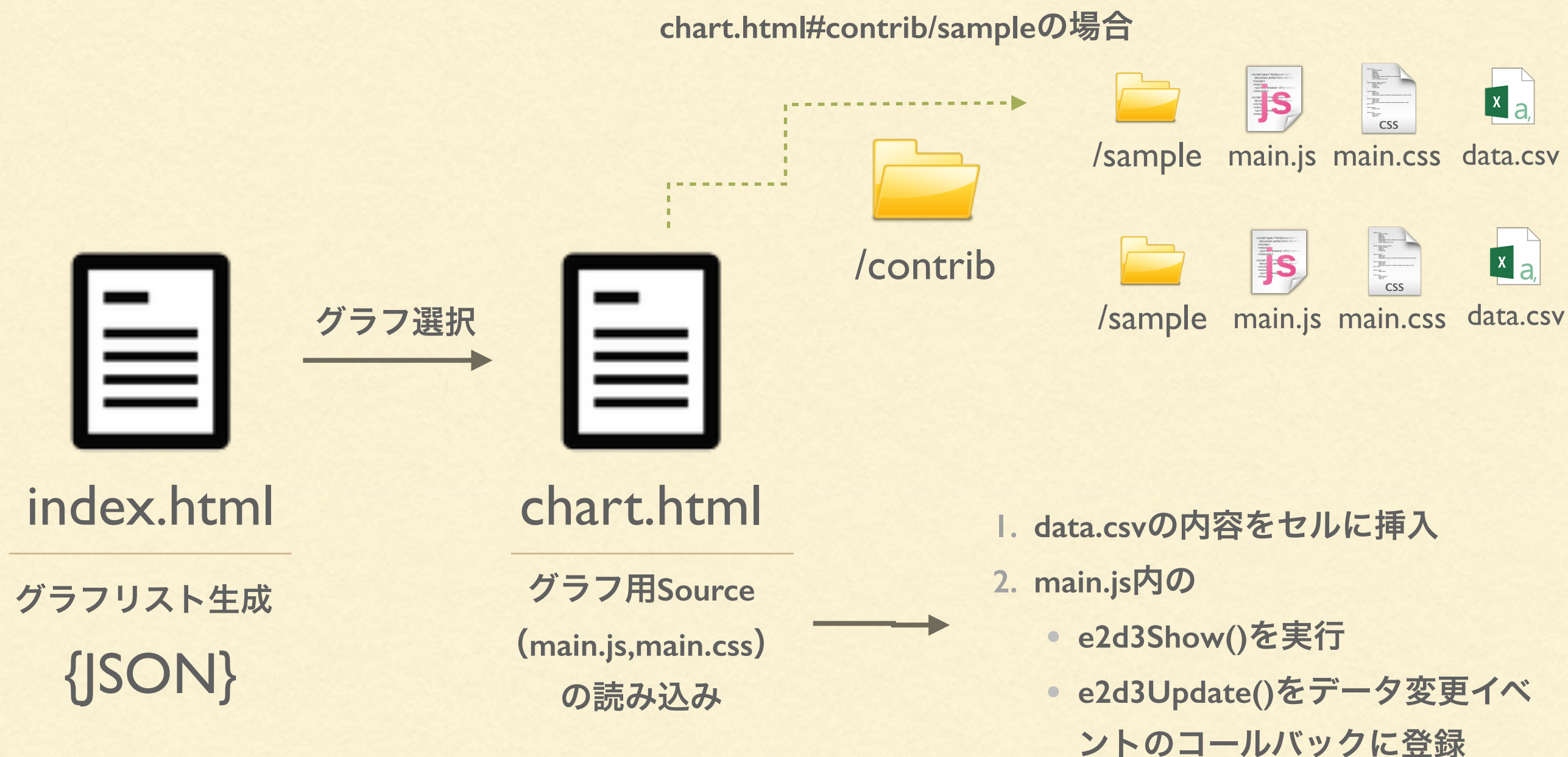
蓄積されたノウハウを活かしますか？



午後からのハッカソンにむけて

- 時間：45分
 - 環境：Office365 Napa (Visual Studio2013以降でもOK)
 - 内容：E2D3, e2d3.js Ver0.3の概要説明と、先ほどの棒グラフをE2D3上で実装してみる。
-

E2D3の概要と構成 Ver0.3

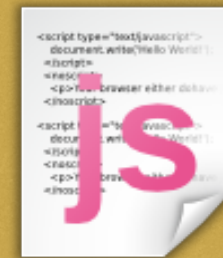


App For Officeの概要とE2D3

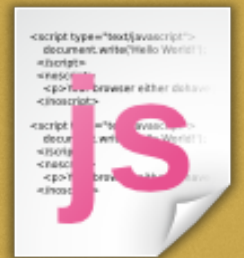
都道府県	A	B	C	D	E	F	G	H	I
都道府県	セブンイレ	ローソン	ファミリーマート	サークルKミニストップ	デイリーヤマザキ	上	位	6	チェーン
北海道	901	602	68	191	0	0	1,762		
青森県	0	200	54	187	36	21	498		
岩手県	95	160	107	89	8	23	48		
宮城県	358	219	235	117	113	32	1,07		
秋田県	39	180	73	97	0	34	42		
山形県	160	70	105	51	0	6	39		
福島県	396	97	142	19	72	16	74		
茨城県	599	137	219	54	104	27	1,14		
栃木県	388	134	156	51	32	17	77		
群馬県	431	90	97	18	51	28	71		
埼玉県	1,026	489	549	192	157	71	2,48		
千葉県	888	453	478	144	195	147	2,30		
東京都	2,144	1,578	1,852	633	281	153	6,64		
神奈川県	1,165	830	715	354	141	83	3,28		
新潟県	388	122	68	109	0	68	75		
山梨県	173	103	85	0	0	48	40		
長野県	421	150	115	146	0	42	87		
富山県	106	182	80	82	0	10	46		
石川県	85	100	90	212	0	15	50		
福井県	50	104	101	66	9	0	33		

{Bind Object}

○データ範囲
○値 など



e2d3.js



main.js

データ範囲を選択

データ範囲と内容を【Bindオブジェクト】に登録

e2d3.jsは
Bindオブジェクト
を介してExcelとやり取り。

この部分はchart.html内のスクリプトで処理しています

NAPAを使用して実際に開発する

main.js内で使う主要なメソッド

Ver0.3

- **e2d3Show()** ・ ・ ・ chart.htmlがmain.jsを読み込んだ際に、自動的に実行するグラフ描画用メソッド。この中に、描画用スクリプトを記述します。
 - **e2d3Update()** ・ ・ ・ 再描画ボタンをクリックした際に実行される再描画用のメソッド。
 - **e2d3.bind2Json()** ・ ・ ・ e2d3.jsのAPI。Excelのデータを取得します。
 - **e2d3.addChangeEvent()** ・ ・ ・ e2d3.jsのAPI。データ変更イベントを補足します。
-

標準のグローバル変数

Ver0.3

- **e2d3BindId** ・ ・ ・ Excelデータバインド用の変数。Strings
 - **baseUrl** ・ ・ ・ グラフ固有のディレクトリまでのURL
 - **windowSize** ・ ・ ・ Windowサイズ。ウィンドウのリサイズを捕捉します。
-

bind2Jsonのオプション色々

【dimension】

【2d】 行毎に「ヘッダ：値」のセット(array)

```
[  
  {head-a: value-a-0, head-b: value-b-0 . . . },  
  {head-a: value-a-1, head-b: value-b-1 . . . },  
  . . .  
]
```

【3d】 2dを1列目の値でラップ(object)

```
{  
  value-a-0:{head-a: value-a-0, head-b: value-b-0 . . . },  
  value-a-1:{head-a: value-a-1, head-b: value-b-1 . . . },  
  . . .  
}
```

【nested】 入れ子構造(object)

```
{“header”: [head-a, head-b, head-c, head-d],  
 “labels”: [head-a, head-b],  
 “targets”: [head-c, head-d],  
 “data”: {  
   “key”: “root”, “label”: “root”, “children”: [  
     {  
       “key”: “head-a”, “label”: “value-a-0”, “children”: [  
         {“key”: “head-b”, “label”: “value-b-0”, “values”: [“value-c-0”, “value-d-0”]}, ...  
       ]...  
     }  
   ]  
 }
```

dimensionを指定しない場合は、1行ずつの配列が帰ります。

bind2Jsonのオプション色々

【is_formatted】

【true】

Excelで表示されている状態のデータが返ります。
※書式が整形されたデータ。
※日付に関するデータは、表示通りの値になります。

【false】

日付に関するデータは、タイムスタンプで返ります。
App for Officeの場合、タイムスタンプはmsではなく、秒です。
1900/01/01から現在の経過秒数になります。

注意として、サンプルデータがセットされる際に、自動的に日付、数字などが判断され、セルに値がセットされます。

意図せず、日付データとして認識される場合があります。今のところ

App for Officeの仕様として、アプリ側で挿入時の自動判別を制御できません。

その他のe2d3 API

- `e2d3.dateObjecter(string) · · ·`

値を日付オブジェクトとして返します。moment.jsなどの簡易版として利用できます。日付として認識できなかった場合は、`false`を返します。

※日付「らしき」データのフォーマットを自動で判別します。必ず日付オブジェクトとして扱いたいときや、日付かどうかを判別する際に。

判別の詳細はソースを確認してください。
